



【今週の暗唱聖句】

キリストは・・・を犯したことがなく、その口に何の偽りも見出されませんでした。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。そして・・・自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、**私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。第一ペテロ2:22～24**

- 誰かについて「罪を犯したことがない」ということは普通のことではない。罪を神の絶対的基準に照らし厳密に考えていたユダヤ人たちにおいては尚のことである。キリストは怒ったし、弟子たちにも呆れ、人々の不信仰を嘆かれたりもした。しかし父なる神への不信仰を表したことはなく、誰に対しても不義理を働いたことはなく、罪を犯さなかった。
- 福音書を通して私達が出会うキリ

【今週の英語】

**"Talk to God.  
notice that I did not say prayer.  
Prayer may or may not  
strengthen you, but talking to  
God always will."  
Dean Sherman.**

神さまには「お話し」しましょう。私がここで「祈りましょう」と言わなかったことに注意してください。「祈り」はあなたを強めるかも知れませんが、強めないかも知れません。しかし、神に「話すこと」はどんな時にもあなたを強めます。ディーン・シャーマン

ストは、人格的な統一性を完全に保っており、聖書記者たちが決して英雄をねつ造しようとしていたのではないことが読めば読むほどわかってくる。そこに描かれているのは、肉体的には疲れ、空腹になったりする人間ではありながらも、中身は決して普通の人間ではなかった。罪の陰りがなく威厳と権威に満ち、奇跡を起こし、波も風も治める全能の神の力を秘めた存在でありながら、罪人たちの横暴な扱いに自らを委ね、なすがままにさせた謙遜な王だったのである。

- イエスが受けた全ての苦しみは、自分をむち打ち、十字架につけた人々の罪の赦しのためであり、神に逆らう全人類のため、そして「私」のためであったということなのである。このキリストの十字架の犠牲をあなたは受け入れるだろうか。

**Is Jesus, Legend,  
Lunatic, Liar, or  
Lord and GOD?**

イエスは次のどれか？ 伝説、きちがいうそつき、それとも主にして神か？



## 【先週のMESSAGEより】

### 十字架に向かうイエス

マタイ26:1-16

十字架刑は過ぎ越祭に執行された。

#### ●イエスの予告

イエスはその働きがピークに達した5000人の給食、変貌山の後、くり返し、ご自身が祭司・律法学者たちに捨てられ、十字架刑で死ぬこと、しかし三日目に復活することを予告した。弟子たちはなかなかその真意を理解することができなかった。

#### ●イエス殺害の計略

神が人に近づく時、人は神の御前で自分の罪深さを思い知らされる。その時に人は大きな岐路に立たされる。罪を悔い改めて神に立ち返るか、逆に目も耳も覆い、キリストを自らの思いから抹殺するかである。時の指導者たちはイエスを十字架につけることで目と耳を閉じ、良心を押し殺したのであった。

#### ●ベタニヤのマリヤ

マタイ／マルコには記録されていない詳細をヨハネは報告している。香油を塗ったのはベタニヤのマリヤであり、彼女はイエスの頭だけでなく足にも香油を塗り、髪の毛でぬぐった。イエスの足下で熱心にイエスの話を聞き続けたマリヤである。彼女だけが本当の意味でイエスが本当に死に向かおうとしていることを理解しその備えをしたのである。

#### ●ユダ

ユダは恐らくイエスと共にいる時でさえ、常に自己中心性によって突き動かされていたのであろう。ゆえに

宗教指導者たちとの対立の激化の中でイエスと共にいることが「損」になると考え、彼はその状況の中で一番「得」になることは何であるか考えたのであろう。彼は銀貨30枚でイエスを裏切ったのであった。

## 【キリスト教の??】

### イースター卵、うさぎは イエス様の復活とどんな関係 があるのか

キリスト教は世界に広がっていくにつれ、絶えず新たな異国語、異文化と接触、衝突を続けていきました。古代のカトリック教会の方針の一つとして、非キリスト教社会や異教の伝統／習慣をやめさせるよりかは、キリスト教の教えに相応しく、それらの新しい意味合いを持たせる形で取り込む方針をとってきました。それが、クリスマスの日12/25や、イースターの様々な習慣となってきたのです。実際、イースターのウサギや玉子の習慣に関しては、クリスマスよりも資料が少なく、「分からない」部分が多いのです。しかし復活の出来事が過ぎ越し祭の時であり、春の時期であったことから春を象徴するさまざまな習慣がイースターに付け足されてきました。教えに役に立つ立たないは別としてウサギはその繁殖力から命の象徴（どちらかという今ではイースターのマスコット）、卵は復活の象徴として今日の教会では教えられます。■